

2017/07/23 先週のメッセージ

「神が与える保証と安心」

■ 三つの保証

1. 永遠のいのち

私が神の御子の名を信じているあなたがたに対してこれらのことを書いたのは、あなたがたが永遠のいのちを持っていることを、あなたがたによくわからせるためです。(Iヨハネ 5:13)

その永遠のいのちとは、彼らが唯一のまことの神であるあなたと、あなたの遣わされたイエス・キリストとを知ることです。(ヨハネ 17:3)

永遠のいのちを持つとは、イエスがキリストであると知ることです。キリストとは、私たちが神のもとに連れて行く救い主であり、王であり、神様ご自身です。聖書は、イエスこそ、神が預言されていたキリストであることを証ししています。

イエス・キリストを知ることが、聖書は、「イエス・キリストに接木された」とも表現します。折れていた枝が再び接ぎ合わされるように、神に接ぎ合わされて一体とされたことによって、私たちはイエス様を知ることができるのです。私たちは決して自分自身の力によって信じるようになったわけではありません。

私たちは、キリストに接木されたことによって、キリストのいのちを持つようになり、死んでいたものがよみがえったのです。あなたがイエス・キリストを信じられるということ、それが、永遠のいのちを持っているということです。イエス様が復活したと同様に私たちも復活する、これが、神様が私たちに保証された永遠のいのちです。

もし私たちが、キリストにつき合わされて、キリストの死と同じようになっているのなら、必ずキリストの復活とも同じようになるからです。(ローマ 6:5)

2. 永遠の愛

私たち人間の人に対する愛は、条件によって変わってしまいます。しかし、永遠の愛とは、一切変わることはない愛です。

高さも、深さも、そのほかのどんな被造物も、私たちの主キリスト・イエスにある神の愛から、私たちを引き離すことはできません。(ローマ 8:39)

誰も神の愛から私たちを引き離すことはできないとは、自分で神から離れることもできないということです。つまり、一度神に接ぎ合わされた人は、何があろうとも、救いが取り消されることはありません。これが永遠の愛の保証です。イエス様は、このことを次のように

語っています。

わたしは彼らに永遠のいのちを与えます。彼らは決して滅びることがなく、また、だれもわたしの手から彼らを奪い去るようなことはありません。(ヨハネ 10:28)

多くのクリスチャンが、罪を犯す自分を見て、自分は本当に救われているのか、本当に天国に行けるのかと不安になるものです。しかし、今の有限の世界において、人は罪を犯さざるを得ない存在です。人が救われるのはその人の行いによるものではありませんし、たとえどのような状態になろうとも、行いによって救いが取り消されることも決してありません。

3. 永遠の弁護

私の子どもたち。私がこれらのことを書き送るのは、あなたがたが罪を犯さないようになるためです。もしだれかが罪を犯したなら、私たちには、御父の御前で弁護して下さる方があります。それは、義なるイエス・キリストです。(Iヨハネ 2:1)

私たちが罪を犯す原因は、病気のせいであることを神様は知っておられるので、あなたがどんなに悪いことをしたとしても、神様は必ず弁護して赦して下さいます。

イエス様は、このことを医者と病人にたとえて、どんな病気になっても必ず私がいやしてあげるから、何の心配もせず、神の前に罪を言い表せばいいと語っておられます。

もし、私たちが自分の罪を言い表わすなら、神は真実で正しい方ですから、その罪を赦し、すべての悪から私たちをきよめて下さいます。(Iヨハネ 1:9)

罪は、あなた自身を苦しめるものです。罪を隠し、うそをつくことによって、自分自身がつらくなり、追い詰められます。

罪とは、生活するうえで毎日生じるゴミのようなものです。それを隠してため続けていくとつらくなりますから、神様は、そのゴミを出しなさいと言われるのです。

あなたが、ただ罪を言い表すならば、心がきれいに洗われたことを体験することができます。汚れたら言い表すことを繰り返し、いつも心が清潔であれば、私たちは平安でいられます。

もし、罪を犯してはいないと言うなら、私たちが神を偽り者とするのです。神のみことばは私たちのうちにありません。(Iヨハネ 1:10)

この世界で生活する限り、必ずゴミが出るように、愛せないという罪も必ず生じます。誰もが罪を抱えていますから、その罪をためこむのではなく、神様の前に出す時、神様があなたをきよくして下さいます。

■ 三つの安心

ここで取り上げる安心とは、私たちがこの世界で生きていく上での安心のことです。

1. 病気のいやし

あなたがたのうちに病気の人がありますか。その人は教会の長老たちを招き、主の御名によって、オリーブ油を塗って祈ってもらいなさい。信仰による祈りは、病む人を回復させます。主はその人を立たせてくださいます。また、もしその人が罪を犯していたなら、その罪は赦されます。(ヤコブ 5:14-15)

この地上で私たちを苦しめるもののひとつが病気です。その病気をいやしてくださると、神様は約束しておられます。それは、医師や薬を用いる場合もありますし、超自然的な方法を用いられる場合もあります。いずれにしても、神様は永遠に私たちを守ってくださいますから、たとえ医師に見放された状態であっても、祈る希望を持つことができます。

ただし、病気のいやしは、永遠のいやしのひな型に過ぎないことを忘れてはなりません。なぜなら、どんなにいやされても私たちの体は、いつか必ず滅びるからです。病気をいやすことが最終的な目的ではなく、永遠のいやしの希望を与えることが神様の目的なのです。私たちが何をおいても神を信頼し、感謝できるようになることを願っておられるのです。

ですから、もしその人が永遠のいやしを確実に受け取っている場合には、病気がいやされない場合もあります。その代表例がパウロです。パウロは、自分の病気だけは、いくら祈っていやされませんでした。それは、病気によって、パウロは常に神様に心を向けることができるからです。なぜ病がいやされる人もいれば、いやされない人もいるのかという質問をよく受けますが、本当のいやしとは、永遠なる神様と結びつくことです。永遠なる神への信仰に結びつかなければ、本当のいやしを受け取っていないことになります。

2. 問題の解決

あなたがたの会った試練はみな人の知らないようなものではありません。神は真実な方ですから、あなたがたを耐えることのできないような試練に合わせるようなことはなさいません。むしろ、耐えることのできるように、試練とともに、脱出の道も備えてくださいます。(I コリント 10:13)

私たちがぶつかる問題に対して、神様は必ず解決の道を用意しておられます。

注意しなければならない点は、これは、神様に祈ったら問題が解決されると言われているのではなく、祈ることで脱出の道が見えるようになると言われている点です。つまり、祈ってただ待っていれば良いというわけではなく、祈るからこそ、問題の解決に向かって一步を踏み出すことができるということなのです。

神様は必ず脱出の道を用意しておられますから、問題にぶつかった時には、あきらめず、

祈って脱出の道を探しましょう。

3. 道を示す

あなたが右に行くにも左に行くにも、あなたの耳はうしろから「これが道だ。これに歩め」と言うことばを聞く。(イザヤ 30:21)

私たちが生きていく上で、どちらを選択したらよいのか、迷うことがあります。この時、神様はどちらに進めば良いのか、私たちに教えてくださいます。神様は、私たちの耳に聞こえる声で語りかけるのではなく、私たちの心の中に願いを起こさせるという方法で道を示されます。願いが起こされたら、それを信じて進んでみましょう。

何を行うにしても、まず神様に道を聞くところから始めましょう。神様は必ず願いを起こして導いてくださいます。それなのに、多くの人が神様に聞こうとしないで、自分の思いを通そうとして、誤った道を進むほうを選択しようとしてしまいます。聖書は、あなたが思う計画を一度神にゆだねなさいと教えています。神様が、それを確かなものとしてくださるからです。なんと安心なことでしょうか。

もし、心に平安がなければ、今それを選択することはやめましょう。正しい道であれば、必ず平安を得られます。心を静かにして、神様に聞くなら、あなたは正しい道を選択できるようになります。